

施工説明書

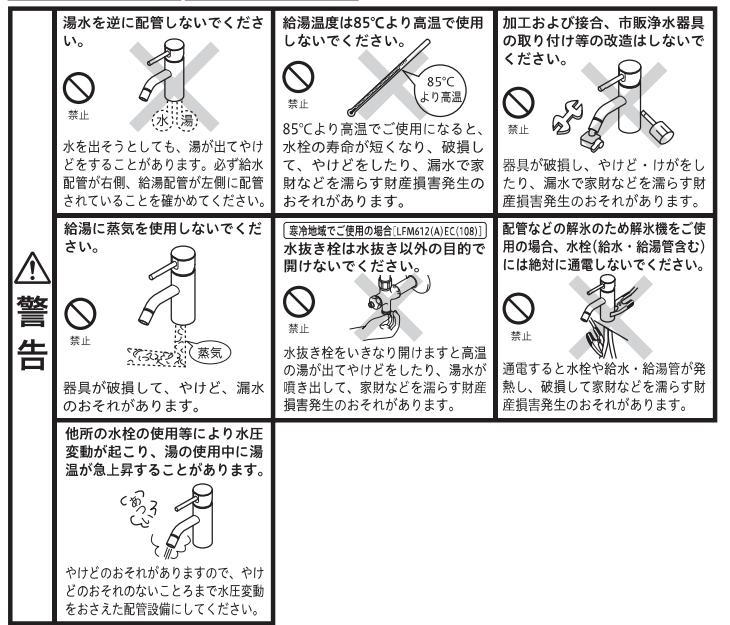
施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

■この施工説明書はLFM612ECのイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取りいをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取りいをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です



1 ページ

取り付け前に

- ① 使用水圧 ($A = (\text{給湯器の最低作動水圧}) + (\text{配管圧力損失})$)
 (1) 脳内給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開)
 (比例制御式) 最低必要水圧: $A+0.10\text{MPa}$ (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 (2) 脳湯式給湯器との組み合わせ
 (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: $A+0.0\text{KPa}$ (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くなるか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が 0.3MPa から 0.75MPa までは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が 0.75MPa を超えるときは、市販の減圧弁で、 0.2MPa 程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため 60°C 以下の設定をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工および接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

- LFM612(A)EC/LFM612EC108仕様は一般地域・寒冷地域共にご使用いただけます。
- LFM612BEC/LFM612EC128/LFM612EC128SH仕様は一般地域のみご使用いただけます。
寒冷地域ではご使用できません。

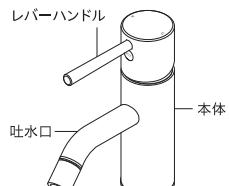
2 ページ

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

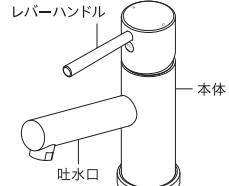
この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

取り付け完成図と各部の名称

[LFM612(A)EC] ————— [LFM612BEC]

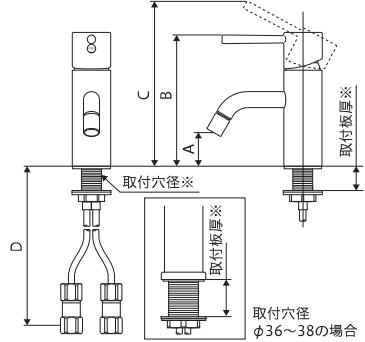


[LFM612BEC]

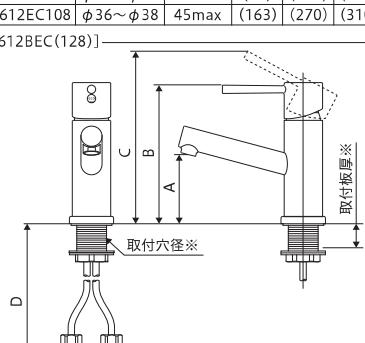


寸法図 各部寸法は仕様により異なる場合があります

[LFM612(A)EC(108)]

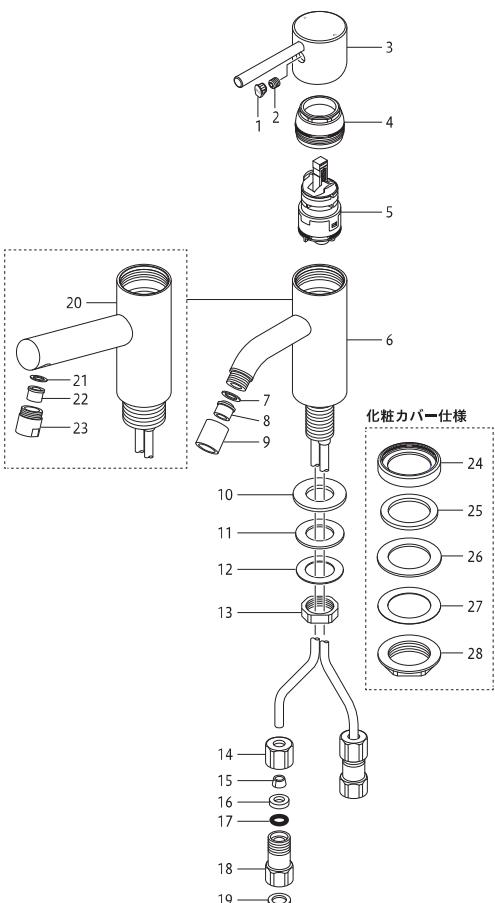


[LFM612BEC(128)]



分解図

1	キャップ
2	六角穴付止めねじ
3	レバーハンドル
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	本体
7	パッキン
8	泡まつ器
9	吐水口金具
10	シートパッキン
11	パッキン
12	座金
13	取付ナット
14	袋ナット
15	テーパーリング
16	座金
17	Oパッキン
18	アダプター
19	パッキン
20	本体
21	パッキン
22	泡まつ器
23	泡まつ器キャップ
24	化粧カバー仕様
25	シートパッキン
26	パッキン
27	スリップ板
28	座付ナット



3 ページ

4 ページ

取り付け手順1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は200mm程度で取り付けます。

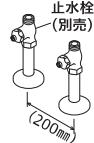
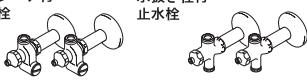
止水栓はストレーナ付が最適です。

寒冷地域でご使用になられる場合は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付

水抜き栓付

止水栓



3 本体の取り付け

取付ナットタイプの場合

① 本体から取付ナット・座金・パッキンをはずします。

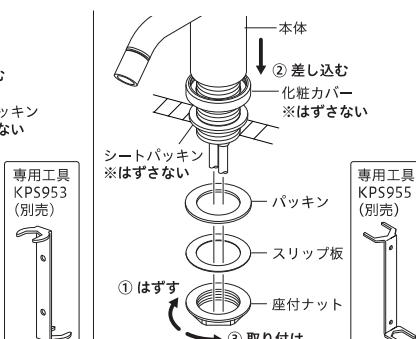
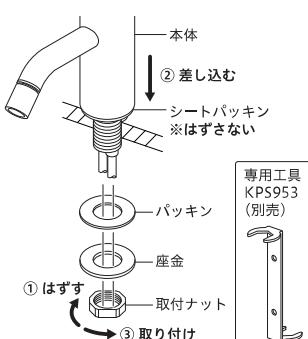
※ シートパッキンははずさない。

② 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、取り付け穴に本体を差し込みます。

③ 本体にパッキン・座金をはめて、取付ナットで固定します。

[△注意]・取付ナットの締め付けは、専用工具KPS953(別売)で確実に行ってください。
座付ナットの締め付けは、専用工具KPS955(別売)で確実に行ってください。
しっかりと締め付けられないとい、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

・取付ナットまたは座付ナットを締め付ける際は、レバーハンドルを持って締め付けないでください。器具が破損し、漏水のおそれがあります。



5 ページ

取り付け手順2

5-1 アダプターを止水栓からはずした状態で銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

[△注意]

接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。

締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナット手締め後、工具で約1回転半程度の締め付けです。)

締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因になります。

薄肉の接続管(ニップル等)には、アダプターを接続しないでください。

パッキンが切れ、漏水して家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因になります。

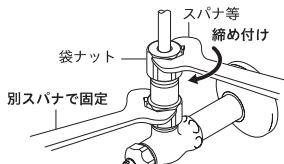
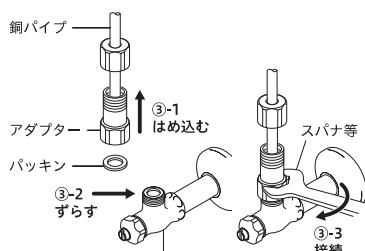
④ アダプターが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながら袋ナットを締め付け、銅パイプとアダプターを接続します。

[△注意]

接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。

締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。(ナットが締まりきって金当たりする程度の締め付けです。)

締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因になります。



取り付け後の点検と清掃

通水確認

[△注意]水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れないことを確認してください。

確認しないと、漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

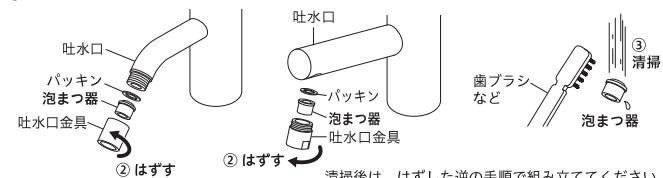
泡まつ器清掃のお願い

吐水口の泡まつ器にゴミ等がつりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

① 湯水全開で20~30秒吐水させます。

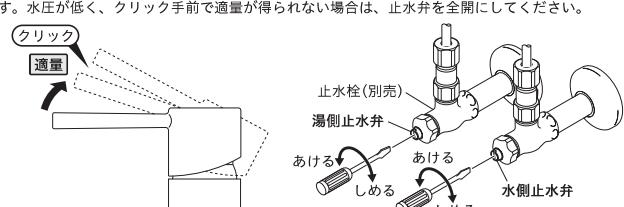
② 吐水口金具をはずして泡まつ器を取り出します。

③ 泡まつ器をブラシで水洗いします。



止水栓による流量の調節方法(止水栓は本製品に同梱されていません。別売です)

止水栓による流量の調節方法は下記の方法で行ってください。
レバーハンドルのクリック手前で適量(湯側・水側それぞれが5L/min程度)になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。



故障かなと思ったら…

修理を依頼される前にお確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

[△注意]・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や漏水の原因になります。
水栓本体内部のメンテナンスは、取扱店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
・メンテナンスはしっかりと本体を保持しながら行ってください。レバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

8 ページ

404590-02

7 ページ

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。
この取扱説明書と施工説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
■この取扱説明書はLFM612EC仕様のイラストで説明しています。

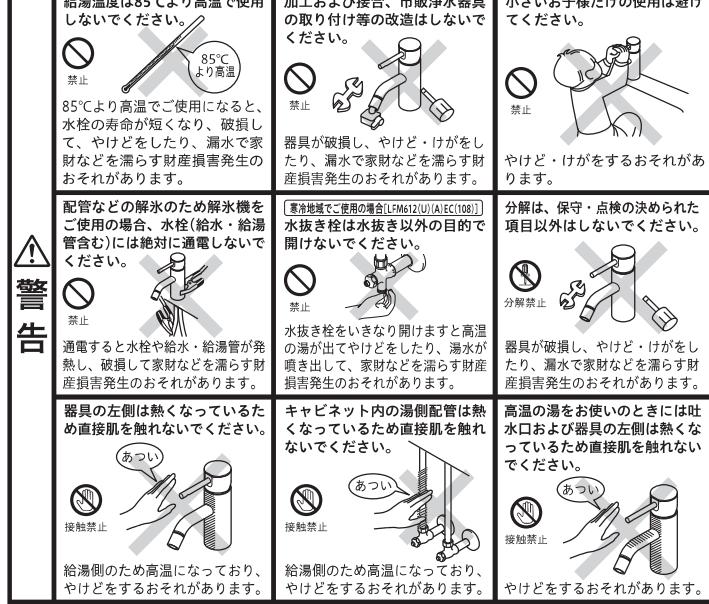
安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

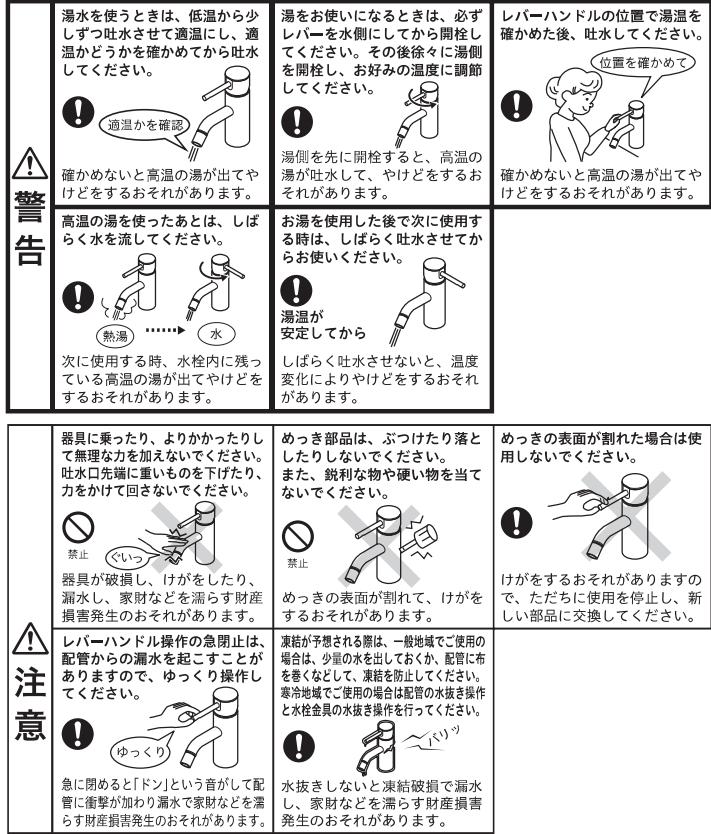


やけど、漏水をした場合の処置 **漏水** やけどをした場合は、すぐ、その箇所に水を流しながら冷やしてください。
そして専門の医師の診察を受けてください。

やけど、漏水をした場合の処置 **漏水** 漏水した場合は元栓、または止水栓を開めてください。ポンプをお使いの場合は、ポンプを止めてください。そして専門の業者に修理を依頼してください。



1 ページ



● LFM612(U)(A)EC / LFM612EC108仕様は一般地域・寒冷地域共にご使用いただけます。
● LFM612(U)BEC / LFM612EC128 / LFM612ECSH仕様は一般地域のみご使用いただけます。
寒冷地域ではご使用できません。

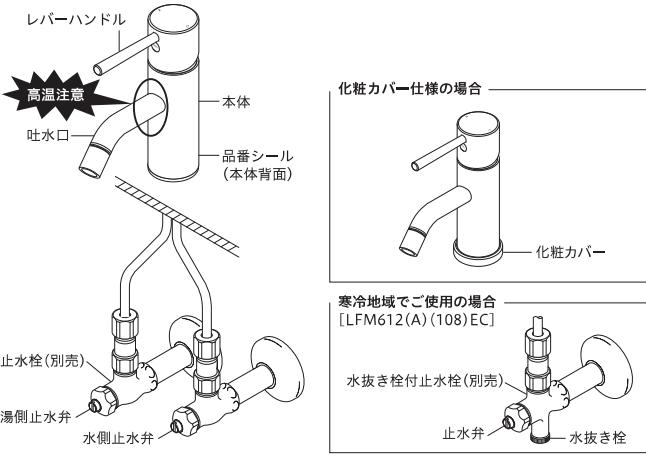
2 ページ

ご使用の前に／ご使用方法

給湯器の使用上の注意

- 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C以下の設定をおすすめします。
- 吐水量が少ない場合、給湯器が着火しないことがあります。（瞬間型の場合）

各部の名称



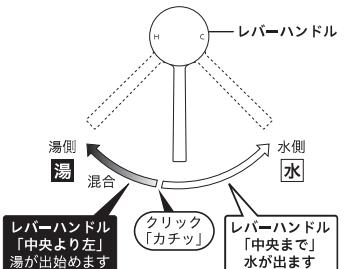
温度の調節方法

レバーハンドルを回し、右側いっぱいから中央まで水が出ます。

中央より左へ回すと次第に湯が始めます。
湯が始めめる位置にクリックを設けています。（無駄なお湯を使わないためのご提案です。）

【△ 警告】
湯水を使うときは、低温から少しづつ吐水させて適温にし、適温かどうかを確かめてから吐水してください。

確かめないと、高温の湯が出てやけどをするおそれがあります。

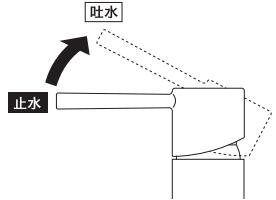


出し止め方法

レバーハンドルを上げると吐水、下いっぱいまで下げると止水します。

【△ 注意】 レバーハンドルは無理な力を加えずゆっくり操作してください。

急な操作や無理な力での操作はウォーターハンマー（水撃）音が発生し、配管からの漏水により家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。



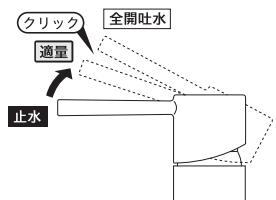
量の調節方法

レバーハンドルは上へ上げるほど流量が増し、クリックを越えると全開吐水になります。

ふだんは適量位置（クリック手前）で使用し、たくさんの量を使用する場合は全開吐水（クリックを越えた位置）でご使用ください。（必要以上の水を使わないためのご提案です。）

※水圧が低い場合、適量位置（クリック手前）では吐水量が少なく吐水が乱れたり、湯側にしても給湯器が着火しない（低温しか出ない）ことがあります。その場合は、開吐水の位置でご使用ください。

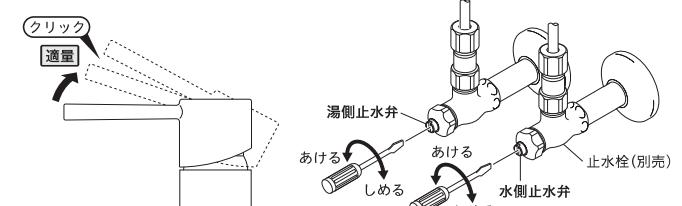
※適量から全開吐水（全開吐水から適量）と操作する際、吐水温度が多少変動する場合がありますが異常ではありません。



止水栓による流量の調節方法（止水栓は本製品に同梱されていません。別売です）

止水栓による流量の調節方法は下記の方法で行ってください。
レバーハンドルのクリック手前で適量（湯側・水側それぞれが5L/min程度）になるように止水弁で調節します。

水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。



日常のお手入れ・保守

お手入れ方法

【軽い汚れの場合】

汚れは柔らかい布やスポンジで水洗いで拭き取ります。

【ひどい汚れの場合】

中性洗剤をぬるま湯でうすめて、やわらかい布で汚れを拭き取ってから、乾いた布でから拭きします。



【使ってはいけないもの】

水栓には樹脂部品が多く使用されているため、シンナー・アセトン・ベンジン・カビトリート・酸性・アルカリ性系・塩素系洗剤等は使わないでください。金たわし・みがき粉等は外観にキズが入るおそれがありますので、使わないでください。

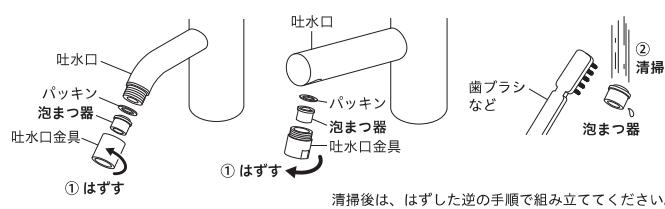


【お願い】メラミンフォームを使用する場合は、文字やマーク等印刷部分をこすらないようにしてください。

泡まつ器の清掃方法

吐水口の泡まつ器にゴミ等がつまると、吐水量が減ったりきれいに流れなくなったりしますので、定期的に清掃してください。

- ①吐水口金具をはずして泡まつ器を取り出します。
- ②泡まつ器をブラシで水洗いします。



清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

5 ページ

凍結予防のしかた

●水栓が凍結すると部品が破損し、水漏れの原因となります。

凍結による部品の破損は、保証期間内でも有料修理となります。

●凍結が予想される場合は、水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。

なお、氷点下になる場合は、凍結予防の処置をしてください。

【△警告】解氷機を使用する際は、水栓(給水・給湯管含む)には通電しないでください。

水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

【△注意】凍結が予想される際は、下記の手順に従って水栓金具の水抜きを行ってください。

意りますと、凍結破損で漏水し、家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。

一般地域でご使用の場合 [LFM612(U)(A/B)EC(108)・LFM612EC(128)]

凍結が予想される場所でご使用になる場合は、以下の処置によって凍結を予防できる場合があります。

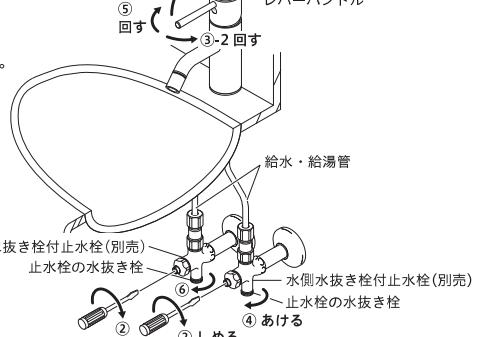
- ・水栓より少量の水を出しておきます。
- ・配管部などに布を巻きます。

寒冷地域でご使用の場合 [LFM612(U)(A)EC(108)]

器具のみの水抜き (配管に水抜き栓がない場合)	配管からの水抜き (配管に水抜き栓がある場合)	操作
①		配管の水抜き栓を操作します。(給水元の水抜き栓の操作)
②		湯水の止水栓の止水弁(2か所)を締めます。
③	③	レバーハンドル全開状態で、右側いっぱいに回します。
④	④	水側の水抜き栓をあけます。
⑤	⑤	レバーハンドル全開状態のまま、左側いっぱいに回します。
⑥	⑥	湯側の止水栓の水抜き栓をあけて水を抜きます。

【△警告】

湯側の止水栓の中には熱湯が溜まっている場合がありますので、操作の際はやけどをしないように注意してください。



水抜き後 通水を再開する

【お願い】上記と逆の手順で操作して通水を再開してください。必ず水抜き栓がしまっていることを確認して、レバーハンドルを下げて(止水状態)から通水してください。

通水を再開しても水が出ない場合……レバーハンドルを上げて(吐水状態)、しばらくお待ちください。これは水栓内に残った水滴が凍りついで起こる現象です。異常ではありません。

6 ページ

定期的な点検

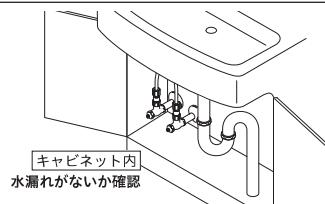
安全・快適にご使用いただくために、定期的に点検をおこなってください。

配管まわりの水漏れ (1か月に1回程度)

【△注意】

配管まわり(キャビネット内)の水漏れがないか確認してください。

部品の劣化・摩耗などによって生じる漏水で、家財などを漏らす財産損害発生を未然に防止するために、配管まわりの点検を行ってください。



水栓取り付け部のがたつき (1か月に1回程度)

【△注意】

水栓取り付け部にがたつきがないか確認してください。がたついたままお使いになると、配管に負担がかかり、漏水で家財などを漏らす財産損害発生のおそれがあります。



故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページおよび項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4 ページ 「止水栓による流量の調節」
	泡まつ器にゴミ等がつまっていますか	泡まつ器を清掃する	5 ページ 「泡まつ器の清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
高温しか出ない	泡まつ器は凍っていないませんか	泡まつ器にぬるま湯をかける	—
	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4 ページ 「止水栓による流量の調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	4 ページ 「止水栓による流量の調節」
	給湯器から十分な湯がけていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	4 ページ 「止水栓による流量の調節」
	給湯器から十分な湯がけていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
吐水が飛び散る	泡まつ器にゴミ等がつまっていますか	泡まつ器を清掃する	5 ページ 「泡まつ器の清掃方法」
	吐水クリップ手前で使用すると、吐水が飛散する・漏れてしまうことがあります	吐水クリップ手前で使用する	4 ページ 「量の調節方法」「止水栓による流量の調節」

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

【△注意】・修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。
水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
・メンテナンスはしっかりと本体を保持しながら行ってください。レバーハンドルを持ってはしませんと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。

●修理のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

□ 0120-474-161 ※携帯電話からは、0574-55-1191をご利用ください。

水栓の品番をご確認ください

修理料金は技術料+部品代+出張料で構成されています

技術料…診断・故障箇所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検等の作業にかかる費用

部品代…修理に使用した部品代

出張料…製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用

●商品に関するお問い合わせはKVKお客様ご相談センターにご連絡ください。

□ 0570-099-552

株式会社 KVK

インターネットホームページ <http://www.kvk.co.jp/>

部品の交換 部品が摩耗劣化すると水漏れ等の原因になりますので、交換が必要です。

・摩耗劣化部品の例 (水栓の種類によって異なります)

例) カートリッジ・シャワーヘッド、シャワーホース、逆止弁等

【△注意】中でもより安全のため、逆止弁は早めの点検・交換を行ってください。逆止弁が正常に機能しないと、状況によっては一度吐水した水が逆流するおそれがあります。(逆止弁は仕様により付いていないものがあります。逆止弁の位置は「各部の名称」をご覗くください)
部品交換のご依頼は、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご連絡ください。

補修用部品の供給期間 この製品の補修用部品(機能維持に不可欠な部品)の供給期間は製造中止後10年です。

7 ページ

8 ページ

404589-01